



2026年1月4日(日)  
1月第一主日礼拝式／聖餐式

# 「さあ賛美しよう」

(詩篇18:46)

さあ賛美しよう 救い主イエスに

さあ賛美しよう 救い主イエスに

ホザナ たたえよう

賛美しよう 救いの岩

ホザナ たたえよう

賛美しよう 救いの岩に

# 90 栄光イエスにあれ

栄光 栄光 イエスにあれ

栄光 栄光 イエスにあれ

み座にいます 小羊よ

ほむべきお方

あなたはすべおさめる

とわに正義をもって

新聖歌521番 「統治(すべし)す神よ」

- 1 すべしらす神よ ときわに導く  
み手のおおみわざ われらほめたたう
  - 2 新しき年(とし)は 主の愛をしめす  
恵みは絶(た)えせじ 年(とし)の終わるまで
  - 3 家にも旅にも 夜昼(よるひる)分(わ)かたず  
み恵みを受けて この年(とし)を過ごさん
  - 4 われらの行く先 さだかに見えねど  
みちびく光に 身をゆだねまつらん
  - 5 禍幸(まがさち) 良し悪し 行き交うなかにも  
われらの喜び 安きは主にあり
- アーメン

# 使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。  
われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。  
主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、  
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、  
三日目に死人のうちよりよみがえり、  
天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。  
かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。  
われは聖霊を信ず。  
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、  
罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、  
永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

## 新聖歌233番 「驚くばかりの」

- 1 おどろくばかりの 恵みなりき  
この身の汚(けが)れを 知れるわれに
- 2 恵みはわが身の 恐れを消し  
任(まか)する心を 起こさせたり
- 3 危険(きけん)をも わなをも 避(さ)け得(え)たるは  
恵みのみわざと 言(ゆ)うほかなし
- 4 御国(みくに)に着く朝 いよいよ高く  
恵みの御神(みかみ)を たたえまつらん

アーメン

## 新聖歌108番 「丘に立てる荒削りの」

1 丘に立てる 荒削(あらけず)りの 十字架にかかりて  
救い主は 人のために 捨てませり いのちを

\* 十字架にイエスキミ われを贖(あがな)いたもう  
十字架の悩みは わが罪のためなり

2 世人(よびと)笑い あざけるとも 十字架は慕わし  
小羊イエス 神の御子が つけられし木なれば

\* (くりかえし)

3 朱(あ)けに染(そ)みし 荒削りの 十字架はうるわし  
赦しあたえ きよくするは ただ主の血あるのみ

\* (くりかえし)

## 新聖歌108番 「丘に立てる荒削りの」

4 責めも恥じも 辛く(つら)あらし 十字架に代わりて  
たまの冠(かむり) 受くる時を 日々待てるわが身は

\* 十字架にイエスキミ われを贖(あがな)いたもう  
十字架の悩みは わが罪のためなり

アーメン



# 主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらのにちようの糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

新聖歌60番 「天地(あめつち)こぞりて」

あめつち こぞりて

かしこみたたえよ

みめぐみ あふるる

父 御子(みこ) 御霊(みたま)を

アーメン